

# 地方公務員健康状況等の現況（平成30年度）の概要

【調査対象期間】 平成30年4月1日～平成31年3月31日

【調査事項】 I 健康診断等の実施状況に関する調査  
II 定期健康診断等の結果に関する調査  
III 長期病休者の状況に関する調査  
IV 在職職員の死亡状況に関する調査

【対象職員数】 約76万人（主に首長部局の一般職員の約60%に相当）

【調査対象団体】 342団体

○都道府県（47）＋指定都市（20）＝67団体

○特別区＝23団体

○市（A）：県庁所在市（31）＋人口30万人以上の市（33）＝64団体

○市（B）：人口5～10万人の市＝94団体

○町村：人口1～2万人の町村＝94団体

※市（B）及び町村については、毎年任意に都道府県ごとに2団体抽出。

※警察職員、消防職員及び教員は対象外。

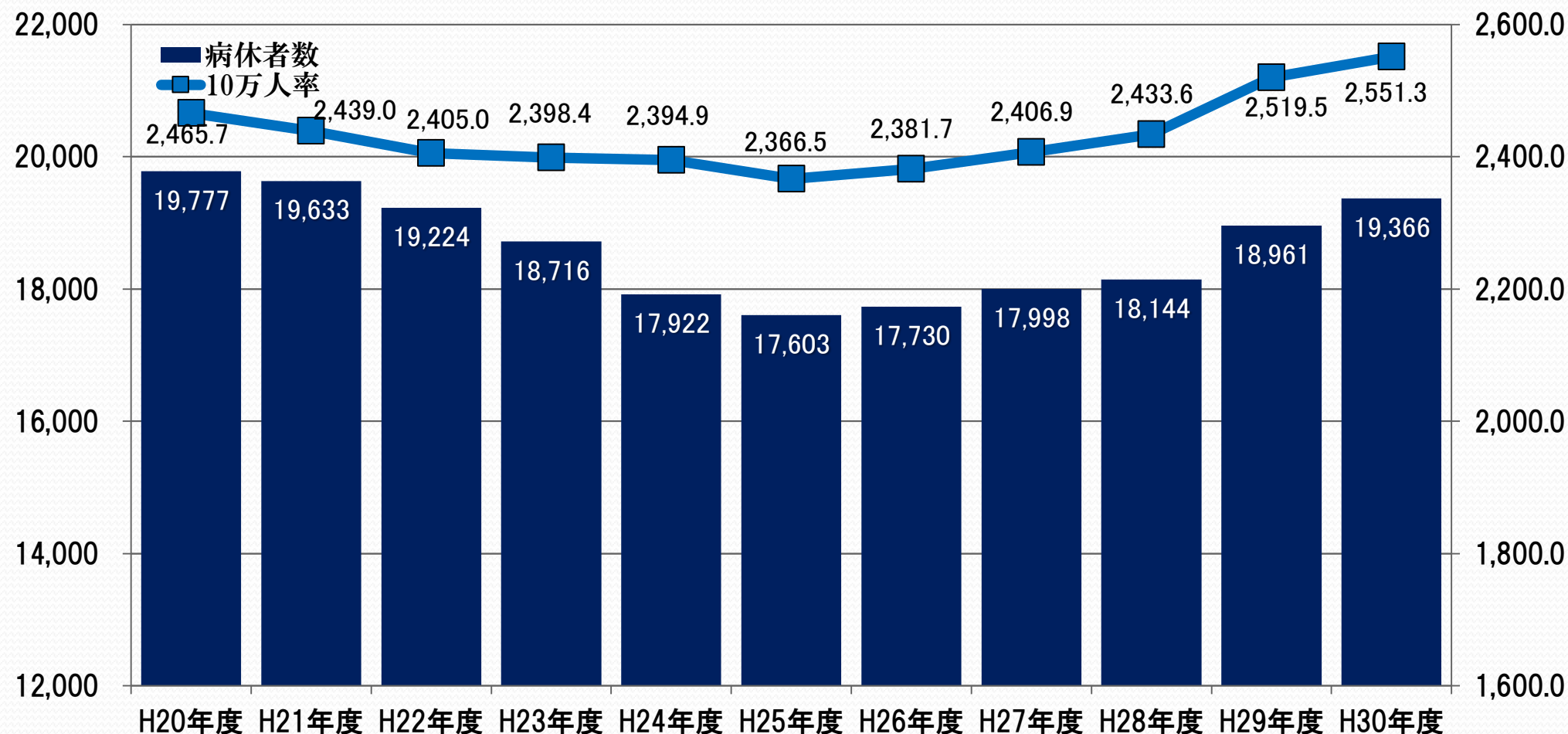
# 今回調査(平成30年度)の概要

- 1 長期病休者（疾病等により休業30日以上又は1ヵ月以上の療養者）数（10万人率）は、2,551.3人であり、平成29年度より31.8人（1.26%）増加している。
- 2 「精神及び行動の障害」による長期病休者数（10万人率）は、1,472.5人であり、平成29年度より63.2人（4.48%）増加しており、10年前の約1.3倍、15年前の約2.5倍である。
- 3 「精神及び行動の障害」の長期病休者全体に占める割合は、57.7%であり、平成24年度から50%を超え、年々増加している。
- 4 在職死亡者数（10万人率）は、79.7人であり、平成23年度から100人を下回っており、減少傾向にある。
- 5 一般定期健康診断の有所見率は、76.4%であり、平成29年度より0.7%増加しており、平成21年度からは70%台で推移している。

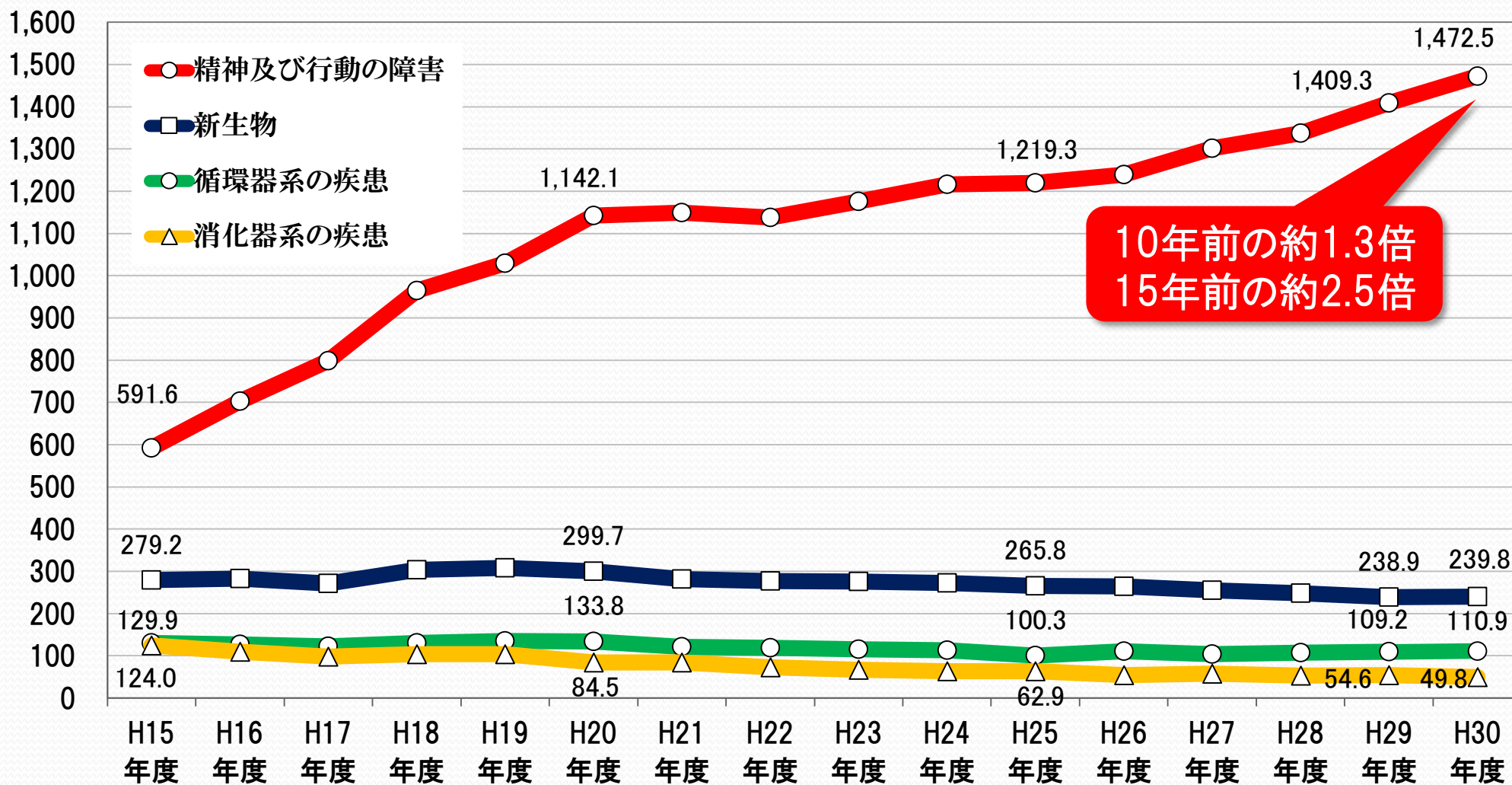
# 長期病休者数(10万人率)の推移

(長期病休者数(人))

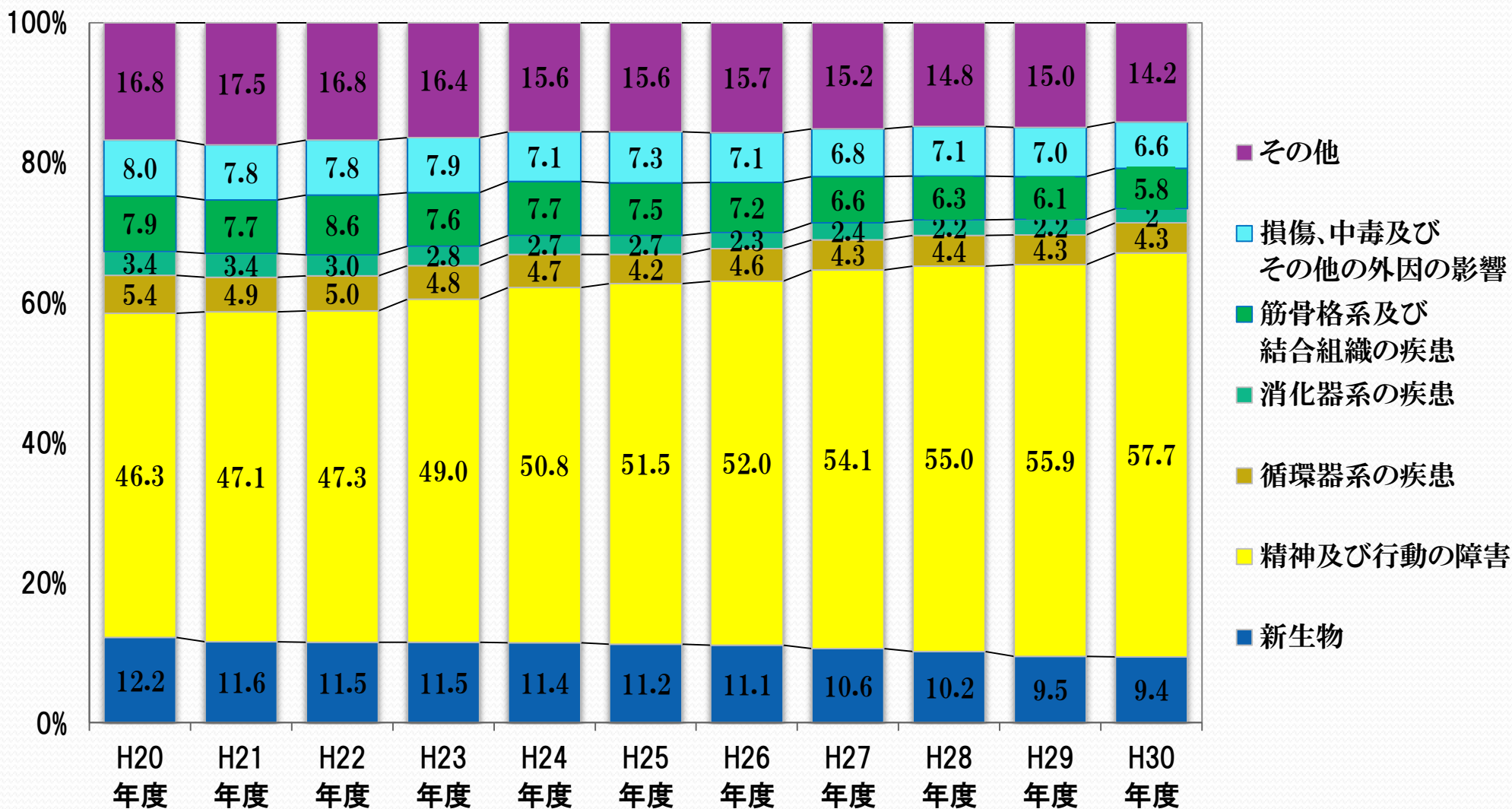
(10万人率(人))



# 主な疾病分類別の長期病休者率(10万人率)の推移



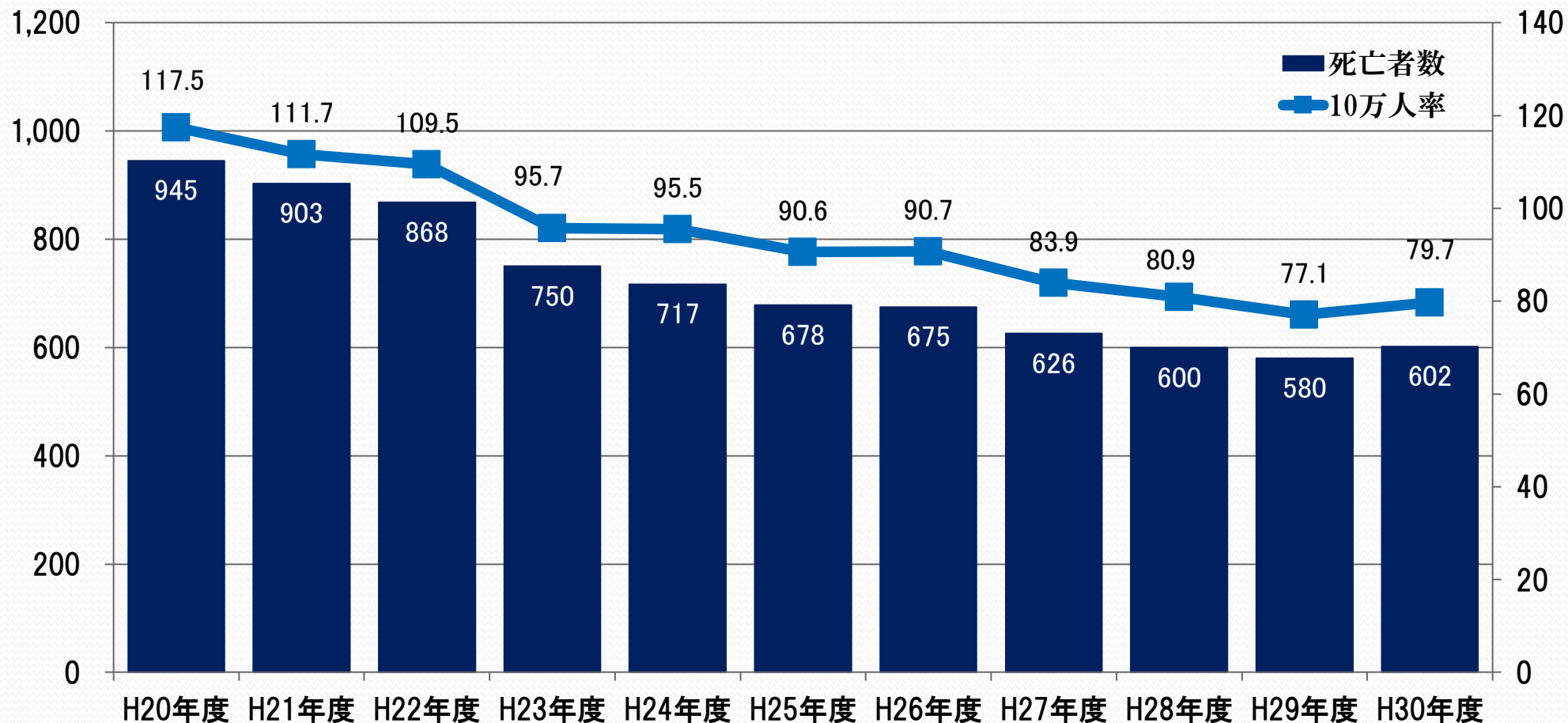
# 長期病休者の疾病分類別構成比の推移



# 在職死亡者の推移

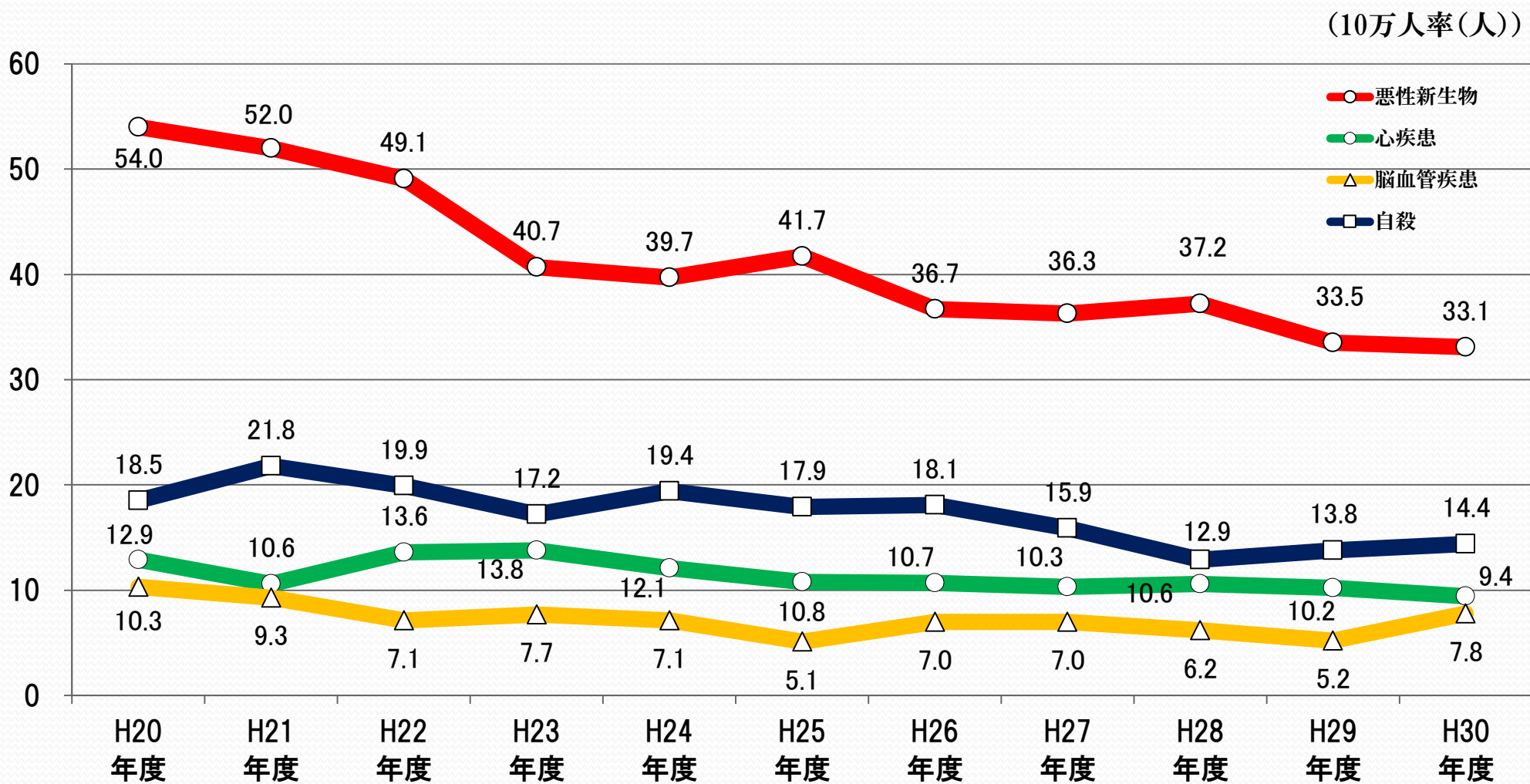
(死亡者数(人))

(10万人率(人))



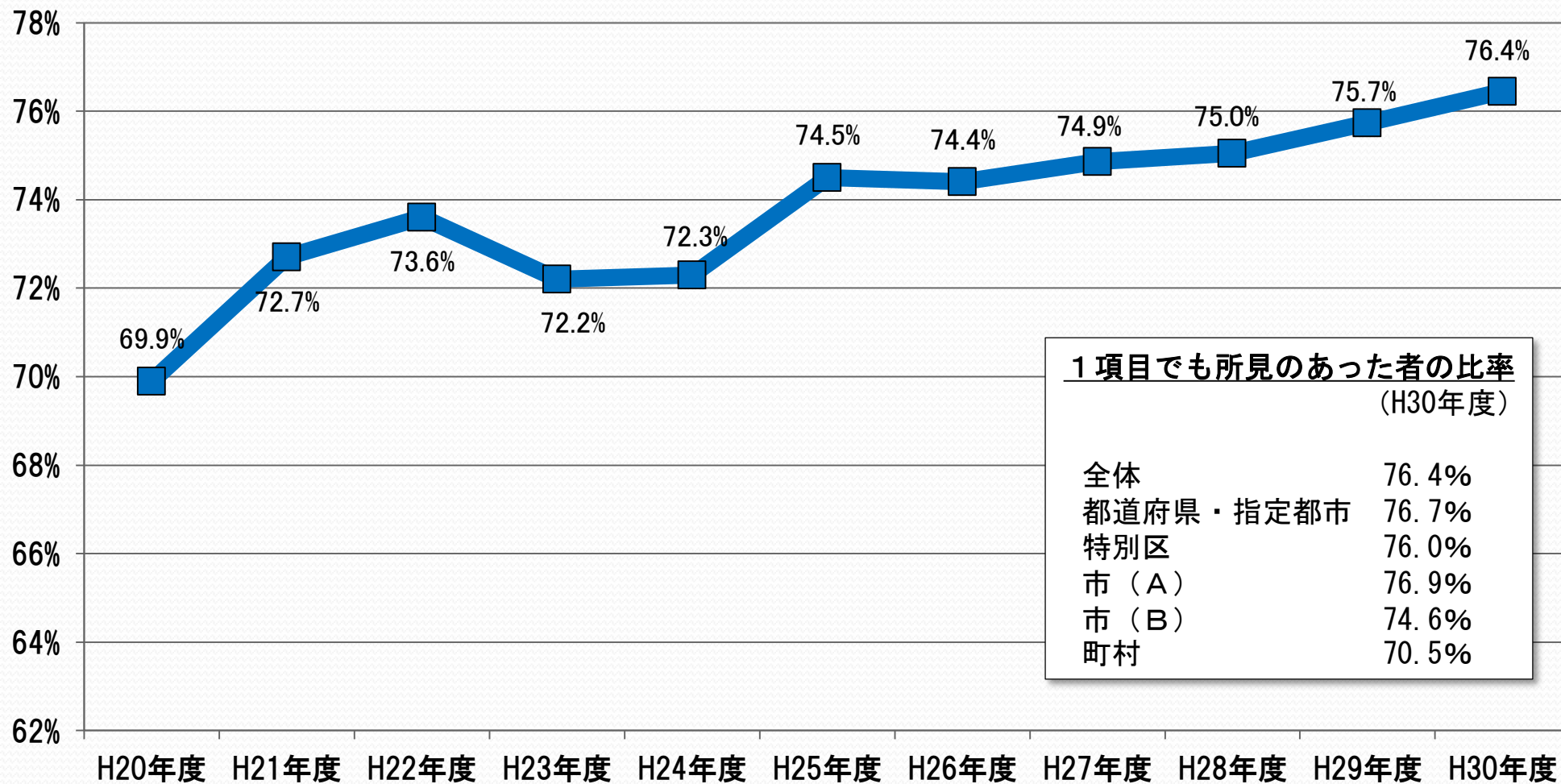
※平成22年度は、東日本大震災の被害が大きかった東北地方の太平洋側沿岸地域の市町村が調査対象として選定されていません。

# 在職死亡者(10万人率)の推移(主な原因別)





# 一般定期健康診断の有所見率の推移





# 一般定期健康診断の有所見率(主な検査項目別)

